

詩の分析法

・詩はさまざまな要素から成り立っている。その要素を一つずつ読み解いていったときに、その詩の〈表現世界〉がはっきりと見えてくる。

・詩の分析法は、二つからなる。

- (1) 〈詩の分析法〉 (2) 行構成の分析

(1) 〈詩の分析法〉

・〈詩の分析法〉＝アメリカの詩人で日本文学研究者のジョン・ソルト John Solt が示した、シュルレアリスト詩人の北園克衛の詩の分析方法をもとに、小松がアレンジ。

・ソルトの分析方法は、北園やシュルレアリスムの作品だけでなく、近現代詩を読む＝分析するときの大きな手懸かりとなる。

*ジョン・ソルト『北園克衛の詩と詩学 意味のタペストリーを細断（シュレッド）する』（田口哲也監訳、思潮社、2010）の第7章「意味のタペストリーを細断（シュレッド）する」。

1. 行の長さ（短い行か、中ぐらいの行か、長い行か）。

※短い行：8文字程度（句読点・スペースを含む）〔7+ α 〕

中ぐらいの行：20文字程度（句読点・スペースを含む）〔5+7+5+ α 〕

長い行：21文字以上（句読点・スペースを含む） [小松補足]

2. 古典語（文語）を使うか、現代語（口語）を使うか。表記の特徴（漢字が多いか、平仮名が多いか、表記を変化させているか）。 [後半追加]

3. 文法的に完全な文（語りや流れの陳述）か、断片的な語句・躊躇などの不完全な発話か。

4. 語順は通常か、倒置があるか。効果をねらった語順となっているか。 [小松補足]

5. 一人称か、二人称か、三人称か、またはそれらの不在か、あるいはこれら三つの中からの組み合わせか。一人称の性別は何か（男性、女性、どちらでも可/ない） [後半追加]

6. 空間的形象か、時間的形象か、またその組み合わせか。また、1編の中で時間（時間軸、時間の流れ）はどのようにになっているか。 [小松補足]

7. 動きがあるか（それは、動的な形象か、停滞的形象か）、動きを排除しているか。

8. 田舎の形象か、都会の形象か。

9. 自然物を表現しているか、心情表現のみか。 [小松補足]

10. 暗喩と直喩を使用しているか、使用していないか。換喩を使用しているか、使用していないか。提喩を使用しているか、使用していないか。

※暗喩・直喩：二つの事物の〈類似性〉によって、一方を他方で表す。

暗喩（隠喩、メタファー metaphor）：「～のようだ」、like, as などを使わない。

例）「晴れ晴れとした顔」「ガラスの心」

直喩（シミリー—simile）：「～のようだ」、like, as などを使う。

例）「太陽なような笑顔」「ガラスのような心」

※換喩（メトニミー metonymy）：二つの事物の〈隣接性〉〈関連性〉によって、一方を他方で表す。目に付きやすいもので、その事物を表す。

例）鳥居（＝神社）、「日本酒を1瓶飲んだ」（1瓶＝1瓶分の内容量）

※提喩（シネクドキー synecdoche）：より一般的意味の語（上位概念）で、具体的な事物（下位概念）を表す。逆に特殊な意味の語（下位概念）で、一般的な事物（上位概念）を表す。

例）「花」（＝桜）（「花見に行く」）、「人はパンのみに生きるにあらず」（パン＝食べ物）[小松補足]

- 1 1. 対話が存在しているか、存在していないか。
- 1 2. 色彩があるか、ないか。色彩がある場合、明か暗か。また、モノクロかカラーか。
- 1 3. デザインのために使う単語か、音のための単語か、意味のための単語か。
- 1 4. 水平的形象か、垂直的形象か、またはその組み合わせか。
- 1 5. 結語のない詩か、完了した詩か。
- 1 6. ことばによる詩か、写真的（「造形的」）な詩か。
- 1 7. どのような音楽性があるか。[小松補足]

（2020年6月作成、2021年4月改訂、4月12日修正）

(2) 行構成の分析

・詩の各行について……

- ① 文字数（句読点、スペースを含んだ文字数）、および句読点、スペースを含まない文字数を数える
- ② 句読点を打つ（詩に記されている句読点ではなく、意味の上での「、」「。」）
- ③ 一文が何行で書かれているかに注目する

・その上で、

- ③ 各行の文字数の変化が、全体としてどのようになっているかを俯瞰する。
- ④ それが、詩の意味とどのように関連しているかを考察する。

・具体的作業としては……

ノートに、詩全体の分析図を作る。

〈参考〉文字数と「音節数」：＊「音楽性」を考えるときに重要となる。

- ・「音節数」＝撥音「ん」・促音「っ」・長音「ー」を除く、拍のまとまり。
ケンタッキー： 6拍（文字）3音節

➡ 行構成の分析を通して、その詩の空間的・時間的構成を知る。

❖ 〈詩の分析法〉と行構成の分析によって、その詩の〈表現世界〉を明らかにする。

（2021年4月 小松靖彦作成）